

写真は、3D プリンターで次々と製作されている「ツチグリ」の模型です。ツチグリは担子菌類に属するキノコの一種で、成熟すると外側の厚い皮が星形に裂け、その中央に胞子をつくる丸い袋を載せた、まるで小さな星や花のような姿になります。森の地面でこの形を見つけると、人工物ではないかと思うほど不思議で、子どもたちにも強い印象を与えるキノコです。

さらに面白いのは、形だけではありません。ツチグリには「晴雨計」という異名があります。星形に開いた外皮は湿度によって動き、湿っていると開き、乾燥すると内側へ巻き込むように閉じて丸くなります。つまり、周囲の水分に応じて姿を変えるのです。この性質は胞子を散布する時期とも関係しており、キノコが単なる「置物」ではなく、環境に反応する巧妙な仕組みをもっていることを教えてくれます。

ツチグリは決して非常に珍しいキノコではなく、林内の地面などで見つかります。しかし、野外観察では「今日はツチグリを見よう」と思って探すと、なぜか一つも見つからないこともあります。そこで、週末に予定している子ども向けの野外キノコ観察会に備え、3D プリンターで模型を量産中です。実物に出会えれば模型と見比べ、見つからなくても一人一つの「ツチグリ」を持ち帰ることができます。きっと子どもたちにも喜んでもらえるでしょう。

